

# F分科会プログラム

## テーマ 建築士としての「防災」を今、考える

### 分科会の趣旨

自然災害が各地で多発する中、建築士に求められる役割も大きくなっています。この分科会では、令和元年東日本台風（台風19号）時、床上浸水した自宅と近隣被災住宅複数件の復旧・再建支援に携わった建築士が、「防災減災、災害対応は行政や地域、様々な組織や仲間と連携協働する必要性」を痛感した体験から、更に「自然災害と復興の現実、備えの大切さ」を理解し共有し合い、防災や発災後の生活再建支援に取り組む活動をしている、神奈川県建築士会 現防災・災害対策委員会の空気をお届けしながら、「防災減災」がより自分ごとになる「意識と考え方」を、全国の仲間に紹介し共有させていただきたいと思います。また、建築士に求められる“防災力”について、令和6年11月に実施された「ハテナからはじまる・みんなの防災ワークショップ【建築士として、災害対応を考える】」の導入と一部のワークを共に体験します。昨今は、地震や水害など様々な災害が頻発し、災害対策は待ったなしの状況です。建築士に求められる社会的役割、建築主の不安や地域の災害リスク状況に応えられる建築士とは？その意識や、今こそ必要な備えについて、分科会参加者と模索し、考えます。

■司 会 渡辺 睦（岡山県建築士会）      アシスタント 日野 緑（岡山県建築士会）

コメンテーター 河原 典子（神奈川県建築士会 防災・災害対策委員会 副委員長・防災士）

浸水被害15か月後、神奈川県建築士会お試し会員となり、令和4年防災・災害対策委員会委員長、士会連合会災害対策委員を務め、「浸水被害住宅の技術対策マニュアル」作成に携わりました。令和5年からは関東甲信越建築士会ブロック会 災害対応会議で情報交換・共有、検討を始めています。

コメンテーター 深谷 美登里（神奈川県建築士会 防災・災害対策委員会 副委員長・防災士）

建築士、土地家屋調査士、防災士でもあり、SHINK-湘南いぬねこ協議会会長、神奈川県動物愛護推進員など、「人とペットの防災」に取り組んでいます。

ワークアシスタント 有泉 ひとみ（神奈川県建築士会 防災・災害対策委員会 委員長・防災士）

### 分科会の進め方

1. 司会挨拶、コメンテーター紹介、趣旨説明 (5分) 9:00～ 9:05
2. 建築士に求められる“防災力” (25分) 9:05～ 9:30  
ハザードマップの正しい読み解きと伝え方 (深谷)
3. 「建築士であり被災者」だった私から伝えたいこと（河原）(25分) 9:30～ 9:55
4. 「ハテナからはじまる・みんなの防災ワークショップ」イントロダクション  
・水災ワークの前提条件説明等（震災ワーク紹介）（深谷）(10分) 9:55～10:05
5. 水災ワーク1 発災前（A・Bさん宅）・発表（有泉・河原）(20分) 10:05～10:25
6. 水災ワーク2 発災後（A・Bさん宅）・発表（有泉・河原）(20分) 10:25～10:45
7. 質疑・意見交換・全体まとめ (15分) 10:45～11:00